

陸連時報 三

2015
平成27年

7 月号

題字は平沼亮三(初代陸連会長)の書

目 次

強化関連情報(強化委員会).....	246
2015ワールドリレーズ大会報告(強化委員会副委員長・トラック&フィールド部門統括 麻場一徳)	
2015年度日本グランプリシリーズ各ブロック報告(強化委員会).....	247
JAAFアスリート発掘育成プロジェクトクリニック事業について(普及育成委員会).....	251
第15回世界陸上競技選手権(2015/北京)マラソン・競歩日本代表選手メッセージ.....	252
国際陸上競技連盟(IAAF)クロスカントリー委員会報告.....	256
(IAAFクロスカントリー委員会委員 澤木啓祐)	
第1回アジアユース陸上競技選手権大会報告(強化委員会強化育成部副部长 前野一浩).....	257
大会観戦ガイド.....	258
陸協NEWS.....	260
事務局からのお知らせ.....	262

公告

「陸連時報」は公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものですが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わさせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願い致します。

公益財団法人日本陸上競技連盟

強化関連情報

強化委員会

2015ワールドリレーズ 大会報告

強化委員会副委員長・トラック&フィールド部門統括 麻場一徳

日本選手団役員 (10名)

団長	尾縣 貢	日本陸連専務理事
監督	麻場 一徳	日本陸連強化委員会 副委員長・トラック&フィールド統括
コーチ(男子)	苜部 俊二	日本陸連強化委員会 男子短距離 部長
コーチ(男子)	土江 寛裕	日本陸連強化委員会 男子短距離 副部長
コーチ(女子)	瀧谷 賢司	日本陸連強化委員会 女子短距離 部長
コーチ(女子)	太田 涼	日本陸連強化委員会 女子短距離 幹事
ドクター	鳥居 俊	日本陸連医事委員会 委員
トレーナー	村上 博之	日本陸連医事委員会 トレーナー部 委員
トレーナー	田村佑実保	日本陸連医事委員会 トレーナー部 部員
渉外	山田真理子	事務局 事業部

日本選手団選手

男子 (9名)

種目	氏名	所属	登録陸協
男子4×100mリレー	藤光 謙司	ゼンリン	神奈川
男子4×100mリレー	塚原 直貴	富士通	神奈川
男子4×100mリレー	桐生 祥秀	東洋大学	埼玉
男子4×100mリレー	谷口耕太郎	中央大学	神奈川
男子4×100mリレー	大瀬戸一馬	法政大学	福岡
男子4×400mリレー	佐藤拳太郎	城西大学	埼玉
男子4×400mリレー	北川 貴理	順天堂大学	福井
男子4×400mリレー	ウオルシュ・北川	東洋大学	埼玉
男子4×400mリレー	小林 直己	東海大学	神奈川

女子 (9名)

種目	氏名	所属	登録陸協
女子4×100mリレー	福島 千里	北海道ハイテク AC	北海道
女子4×100mリレー	渡辺 真弓	東邦銀行	福島
女子4×100mリレー	土井 杏南	大東文化大学	埼玉
女子4×100mリレー	市川 華菜	ミズノ	愛知
女子4×100mリレー	北風 沙織	北海道ハイテク AC	北海道
女子4×400mリレー	青山 聖佳	大阪成蹊大学	島根
女子4×400mリレー	青木沙弥佳	東邦銀行	福島
女子4×400mリレー	千葉 麻美	東邦銀行	福島
女子4×400mリレー	吉良 愛美	アットホーム	東京

※市川華菜(ミズノ)は、女子4×400mリレー代表を兼ねる

第2回目となるワールドリレーズが、前回同様バハマのナッソーで開催された。日程的には5月2日(土)、3日(日)と昨年より3週間ほど早くなった開催であった。これに対応するために、強化委員会としても今年度の織田幹雄記念国際陸上競技大会の日程を従来より10日ほど早くしていただき、この大会を最終予選会と位置づけた。

織田幹雄記念国際陸上競技大会の大会当日が例年のような好条件とはいかなかったこともあり、タイムが伸びず、それぞれレース途中で棄権を余儀なくされる有力選手もあり、加えて後に控える競技会スケジュールの過密さを考慮してか辞退する選手も現れ、特に男子代表の選考に困難を極めた。

さらには、代表に選出された加藤修也選手(早稲田大学)が織田幹雄記念国際陸上競技大会のレースでの負傷により辞退、久しぶりに代表復帰して活躍が期待された塚原直貴選手(富士通)が現地での練習中に脚を痛める等のアクシデントもあり、前途多難な状況で大会を迎えることとなった。

ただし、女子については、ナショナルリレーチームとして強化してきたメンバーが代表に名を連ねることとなり、冬場からの強化策が実る形で大会を迎えることができた。

男子4×100mリレー 決勝第3位(銅メダル) 38秒20

予選、決勝ともに、大瀬戸一馬・藤光一桐生・谷口のオーダーで臨んだ。予選は1レーンに充てられ苦戦が予想されたが、見事なバトンパスワークで2着に入り、着順で決勝に駒を進めることができた。タイム的にも38秒73と諸々の条件を考えると、まずまずの出来であったと言える。

決勝では、大瀬戸選手の第1歩目から「行ける」と思わせるような感触があった。バトンパスワークに加え、4人の各々の走りも見事であり、4走の谷口選手に渡った瞬間はジャマイカとの2位争いという素晴らしいレースであった。

前途多難な状況で迎えただけに、これ以上ない結果であったと言える。大瀬戸、桐生、谷口といった若手の活躍が光ったが、それ以上に藤光という柱の存在が際立ったレースであったように思われる。

強化委員会がかねてから公言しているように、世界選手権北京大会ではこの結果を取めた4選手を中心としたチーム編成がなされることとなる。世界選手権においても、日本伝統のバトンパスワークを更に進化させた形で表現してくれることを期待したい。

男子4×400mリレー 予選2組6着敗退 3分06秒38

小林-佐藤-ウォルシュ-北川のオーダーで臨んだ。

スタート機器の不調の影響もあり、第1走者の小林選手が大きく出遅れてしまい、それを挽回すべく前半オーバーペースになり、後半の失速が大きくなってしまった。結局、この流れを立て直すことができず、組6着、全体で17番目とB決勝にも残れない不本意な結果となった。

今回、若手の台頭という意味での収穫はあったが、4継の藤光選手のような柱的存在の必要性が感じられるものでもあった。今後の立て直しが急務である。

女子4×100mリレー 予選3組失格

渡辺-土井-福島-市川のオーダーで臨んだが、第1走者の渡辺選手から第2走者の土井選手へのバトンパスがオーバーゾーンとなってしまい、誠に残念ながら失格となってしまった。

女子4継は、世界大会でなかなか結果を残せないでいる。オリンピックや世界選手権に出場できるレベルまでは来ているので、何とかもう1ステップ上がって欲しいし、そのきっかけが欲しいものである。

いずれにしても、諦めることなく、粘り強くチャレンジを続けて欲しい。

女子4×400mリレー B決勝2位 3分34秒65

予選は青山-千葉-青木-市川のオーダーで臨み4着。記録的には3分32秒79と目標には届かなかったが、粘り強くレースを選び、B決勝進出を果たした。

B決勝では青山-千葉-青木-吉良のオーダーで臨み、終始先頭争いを演じた。記録的には物足りなかったが、条件さえ整えば3分30秒突破の可能性を十分感じさせるレースであった。B決勝とはいえ、堂々と先頭争いで走り抜いたことは、選手たちにとって大きな自信になったと思われる。

世界選手権大会の出場権において現在ボーダーラインに位置しているが、何としても出場権を掴んで欲しい。高いレベルでレースをするほど力を発揮するチームであり、メンバーだと確信している。

今回一番印象に残ったことは、メディアと選手との距離感についてである。これまでのオリンピック大会や世界選手権大会において、ウォームアップエリアまで彼らが入ってくることは無かったが、今回は結構フリーな状態でウォームアップエリアや選手村ホテルにおいてメディア取材が行われていた。大会のエンタテインメント性を高めることもそうであろうと思われるが、メディアのオープン化も国際陸連の考えの方向性を示すものだと思う。日本陸連として、対応の仕方についての指針を示す必要があるとの印象を持った。

また、前回大会の反省もあり、今回はニューヨークで乗り継ぎのため1泊を挟んでバハマへ直行する形でスケジュールを組んだ。選手村となった高級リゾートホテルの冷房が強いこともあって体調管理に苦勞する場面もあったが、ドクター、トレーナーのご尽力により全体としては良いコンディションでレースを迎えることができた。

しかし、何分にも移動時間の長さへの対応が大きな課題となる。来年は無いが、2017年は再びバハマで開催されるようである。ワールドリレーズの位置づけが国際陸連あるいは各国において非常に高いものだけに、移動の際の選手のコンディション管理には格段の配慮が必要だと思える。

JAPAN SPORT COUNCIL

日本スポーツ振興センター
競技力向上事業

2015年度日本グランプリシリーズ各ブロック報告

強化委員会

<男子短距離ブロック>

部長 荻部 俊二

本年度の日本グランプリシリーズにおける男子短距離種目は、5月2日から3日にバハマ・ナッソーで開催される2015ワールドリレーズの選手選考会となったため、4月18日～19日に100m、200m、400mの短距離種目すべてが織田幹雄記念国際陸上競技大会で行われ、例年よりも10日から15日ほど早い時期での開催となった。

男子100mは、3月のアメリカ・テキサスリレーで10秒01の記録を持つ桐生祥秀選手（東洋大学）が追い風参考ながら9秒87(+3.3)をマークしたことから日本人初の9秒台に期待がかかったが、残念ながら桐生祥秀選手は10秒40(-0.2)で2着に終わった。優勝はケンブリッジ飛鳥選手（日本大学）で10秒37の記録であった。桐生祥秀選手と同着の2着には塚原直貴選手（富士通）が入り存在感を示した。テキサスリレー200mで追い風参考ではあったが20秒09の好記録をマークした高瀬慧選手（富士通）は、予選（10秒44）は走ったものの前日の200mの影響から脚の不調を訴え、決勝は残念ながら棄権した。致命的な怪我ではなく大事をとっての欠場であった。

男子200mは予選で高瀬慧選手が追い風参考ながら20秒34(+2.9)で走り好調を維持していたが、決勝では左内転筋に痙攣を起し途中棄権した。優勝は藤光謙司選手（ゼンリン）で、藤光謙司選手も脚に少々不安を抱えており万全な状態ではなかったが自己2番目となる20秒43(+1.5)をマークし大会新記録での優勝は高く評価できる。2着には20秒35の自己記録を持つ橋元晃志選手（早稲田大学）が20秒71で走り、復調をアピールした。

男子400mは第1人者の金丸祐三選手（大塚製薬）が欠場したため混戦となった。レースは予選から好調であった佐藤拳太郎選手（城西大学）が前半から積極的に飛ばし、46秒21の自己記録で優勝した。2着には北川貴理選手（順天堂大学）が46秒52で、3着にはウォルシュ・ジュリアン選手（東洋大学）が46秒60で続いた。4着にも加藤修也選手（早稲田大学）、5着小林直己選手（東海大学）が入り上位を学生が占め、若手の活躍が目立った。

日本グランプリシリーズの結果から2015ワールドリレーズの選手が選考された。その2015ワールドリレーズでは、4×100mリレーで大瀬戸一馬選手（法政大学）-藤光謙司選手-桐生祥秀選手-谷口耕太郎選手（中央大学）のメンバーでアメリカ、ジャマイカに次いで3着となり、見事銅メダルを獲得、2016年リオデジャネイロオリンピックの4×100mリレー出場権を得た。世界大会では北京オリンピック以来のメダル獲得であり、タイムも38秒20と日本歴代4位の好タイムで、北京世界陸上競技選手権での活躍が期待される。

今年の日本グランプリシリーズは例年より早期の開催となったことや条件があまり良くなかったこともあり、記録的には寂しい大会となった。選手の調整も難しかったとの声がかかれた。2016年は、ワールドリレーズは開催されないため、来年度は日程の再調整を行い、少しでも良い条件で日本グランプリシリーズを開催したい。

<女子短距離ブロック>

部長 瀧谷 賢治

2015ワールドリレーズ（5月2日から3日）の選手選考の関係で織田幹雄記念国際陸上競技大会が例年より約2週間早まって開催された。選手はこれに対応すべく準備を進めてきていたとはいえ、4月中旬まで天候不順で雨の日や寒い日が多く、最後の仕上げの段階で質の高いトレーニングを遂行できなかったことがどう記録に影響するか心配していた。

初日に行われた200mでは3月の豪州転戦、ナショナルチーム合宿と順調な仕上がりを見せていた福島千里選手（北海道ハイテクAC）がどのような走りも披露するが期待していた。しかし、200mの予選、決勝ともに下腿部に痙攣が起きてしまった。それでも23秒54をマークし状態の良さを確認することは出来た。上

位にはナショナルリレーチームメンバーの市川華菜選手（ミズノ）、土井杏南選手（大東文化大学）が続いたが24秒台にとどまり記録的には物足りない内容であった。好記録を出せるだけの練習は両者ともに出来ており今後も期待して見守りたい。翌日の100mは気温が低く、時折雨の降る天候の中で行われ記録を狙うには厳しい条件であったが、シーズン初戦であることを考慮しても決勝進出ラインが12秒00は非常に物足りない内容と言わざるを得ない。決勝では200m同様にナショナルリレーチームメンバーの渡辺真弓選手（東邦銀行）、土井杏南選手、市川華菜選手、北風沙織選手（北海道ハイテクAC）が上位を占めた。ショートスプリントの2種目を見ると福島千里選手と2番手以降との差が顕著であり、その差を縮めることがここ数年出来ていない。4×100mリレーの国際競技力向上を考えても、個々のレベルアップは必要不可欠であり日本選手権では高いレベルで優勝争いをして欲しい。

初日に予選、2日目に決勝が行われた400mはバックストレートの風と雨の影響もあり、優勝タイムが54秒26にとどまったものの、大学進学による環境の変化もある難しいコンディションの中、若手期待の青山聖佳選手（大阪成蹊大学）が期待通りに優勝してくれた。2位に青木沙弥佳選手（東邦銀行）、3位に千葉麻美選手（東邦銀行）が入り、ナショナルリレーチームのメンバーが1～5位を占めた。4×400mリレーが世界で戦うためにも日本選手権ではメンバー全員が52～53秒で争う状態に仕上げなければならぬ。また、昨年度日本選手権覇者である松本奈菜選手（筑波大学）の故障からの復調も待たれるところである。

2015ワールドリレーズから帰国後すぐに行われたセイコーゴールデングランプリ陸上2015川崎においては、2015ワールドリレーズで失格という不甲斐ない結果に終わった4×100mリレーチームが43秒61、2015ワールドリレーズでB決勝2位となった4×400mリレーチームが3分34秒87に終わり、いずれも日本記録を更新することはできなかった。世界での現状に目を背けることなく北京世界陸上競技選手権、リオデジャネイロオリンピック出場権獲得に向けて、今後も諦めずにチャレンジしていきたい。福島千里選手は移動の疲れもある中、期待通りに200mで23秒11をマークし世界陸上競技選手権参加標準記録を突破した。精神的なたくましさが増した今季は100m、200mの日本記録が十分狙えるのではないだろうか。

織田幹雄記念国際陸上競技大会ではナショナルリレーチームメンバーが各種目の上位を占めた一方で、新戦力、若手の台頭が見られなかったことは非常に残念でならない。2015年度の抱負で述べた通り、国際大会でのファイナル進出という夢を実現するためには、ベテランが存在感を示し、中堅が負けじとアピールする、そこに若手が台頭するような好循環を生み出さなければならぬ。2020年を考えても早急に対策が必要であると感じている。

<ハードルブロック>

部長 櫻井 健一

今年度の日本グランプリシリーズにおいてハードル種目はすべて静岡国際陸上競技大会で実施された。例年は110mHと100mHは織田幹雄記念国際陸上競技大会で実施していたが2015ワールドリレーズの選考日程の都合上、織田幹雄記念国際陸上競技大会が10日早い開催となったので静岡国際陸上競技大会にて開催していただいた。

男子110mHでは、昨年度の日本チャンピオンである増野元太選手（国際武道大学）が13秒80の記録で優勝を果たした。世界陸上競技選手権の参加標準記録には届かなかったが、ユニバーシアード競技大会の選考も兼ねていたため勝つ事に専念したうえで勝利であった。今後日本選手権に向けて確実に調子を上げてくるだろう。2位には高校記録保持者であり今年度から大学生となった古谷拓夢選手（早稲田大学）が13秒93で入賞した。まだジュニアの選手である事を考えると、今後非常に楽しみで

ある。若手選手が力を伸ばしてきている中で、13秒5〜6台の力を持つ大室秀樹選手（大塚製菓）や佐藤大志選手（日立化成）が本来の力を出し切れなかった。今後の奮起に期待したい。

女子100mHでは、同じく昨年の日本チャンピオンである木村文子選手（エディオン）が13秒27の記録で優勝し順調なシーズンインを果たした。セイコーゴールデングラプリ陸上2015川崎でも13秒25と記録を伸ばして日本選手トップの成績を残した。この冬期はアメリカで武者修行をしてきており、更なる飛躍が期待できるだろう。2位には紫村仁美選手（佐賀陸協）が13秒32で入り、そろってアジア陸上競技選手権大会の代表入りを果たした。お互いの切磋琢磨により日本記録更新を果たし世界への挑戦権を手に入れて欲しい。3位には7種競技の学生記録保持者になったヘンパヒル恵選手（中央大学）が入賞しその潜在能力の高さを見せつけた。

男子400mHでは松下祐樹選手（チームミズノアスレティック）が49秒78の記録で優勝を果たし好調なシーズンインを果たした。2位は小西勇太選手（住友電工）が49秒98で入賞した。小西勇太選手はセイコーゴールデングラプリ陸上2015川崎では外国選手に競り勝ち、49秒70で2位と調子を上げており今後に期待したい。しかし世界陸上競技選手権の参加標準記録突破はならずお家芸である400mHの復活には程遠い記録であった。岸本鷹幸選手（富士通）がケガで出遅れている状況だからこそ、チャンスをつかもうとする選手が現れて欲しいものである。世界で戦うためには48秒中盤の記録が必要なのである。

女子400mHは第一人者である久保倉里美選手（新潟アルビレックスRC）がケガで2試合とも欠場であった。そんな中、静岡国際陸上競技大会では伊藤明子選手（筑波大学）が58秒52の自己新記録で2位（日本人1位）と記録を伸ばしてきた。高校生の石塚晴子選手（東大阪大学敬愛高校）が58秒87と続き若手選手が記録を伸ばしている。石塚晴子選手は翌週の木南道孝記念陸上競技大会で58秒06とさらに記録を伸ばしており、57秒台も見えてきている。

セイコーゴールデングラプリ陸上2015川崎では2015ワールドリレーズ代表の吉良愛美選手（アットホーム）が57秒73で2位となり貫禄を示した。吉良愛美選手は伊藤明子選手と揃ってアジア陸上競技選手権大会代表となったのでこのチャンスを生かして欲しい。若手選手が成長し久保倉里美選手を刺激する事が女子400mH活性化につながるの、第一人者の座を奪うつもりでチャレンジをして欲しい。

ハードル種目においては、未だ世界陸上競技選手権の参加標準記録突破者がいない状況が続いている。しかし、若手競技者の育成と成長、積極的な海外でのトレーニングなど結果につながる可能性は高まってきているので、日本選手権に向けた1試合、1試合を大切にレベルアップを目指して強化を進めていきたい。

<跳躍ブロック> 部長 吉田 孝久

今年も日本グランプリシリーズが各地で始まり、跳躍ブロックでは北京世界陸上競技選手権の参加標準記録突破を第一の目標にそれぞれの大会に臨んだ。

織田幹雄記念国際陸上競技大会は、例年よりも1週間程度早い4月18日〜19日に行われ、跳躍種目では男女の三段跳と女子棒高跳が実施された。

男子三段跳では、長谷川大悟選手（日立ICT）が優勝したものの記録は15m88にとどまった。女子三段跳は、前田和香選手（PEEK）が13m18で優勝した。

女子棒高跳は、昨年の仁川アジア競技大会の銀メダリストである我孫子智美選手（滋賀レイクスターズ）が4m20の記録で優勝し、順調な仕上がりをみせた。

続いて4月25日〜26日には兵庫リレーカーニバルが行われ、ここでは男女の走幅跳が実施された。

男子走幅跳では、Mt. SACリレー（アメリカ）で8m18を跳び、北京世界陸上競技選手権の参加標準記録を突破した菅井洋平選手（ミズノ）に記録更新の期待が持たれたが、8m07（追い風2.2m）にとどまり2位に終わった。一方、社会人1年目のルーキー嶺村鴻汰選手（モンテローザ）が追い風2.1mながら8m08を跳躍し

て優勝を飾った。今回の記録は参考記録であったが、世界陸上競技選手権の参加標準記録まであと2cmと迫るもので、これからの試合で記録突破の期待がもてるものであった。

女子では、4月の九州学連競技会で6m42を跳んだ平加有架奈選手（北海道ハイテクAC）がここでも好調を維持し、6m19を跳んで優勝を飾った。

5月3日には静岡国際陸上競技大会がエコパスタジアムで行われ、男女走高跳と男子棒高跳が実施された。

これまで日本グランプリシリーズでは、跳躍種目からは北京世界陸上競技選手権の参加標準記録を突破することができなかったが、ここでようやく2種目が参加標準記録の突破を果たすことができた。

男子棒高跳では、荻田大樹選手（ミズノ）が5m65を跳躍し、室内シーズンに続いて屋外でも参加標準記録を突破した。荻田大樹選手は4月17日のMt. SACリレー（アメリカ）でも5m55で優勝しており、好調を維持することができていた。

また、男子の走高跳では、衛藤昂選手（AGF）が2m28の自己タイ記録で同じく世界陸上競技選手権の参加標準記録を突破した。2位には高張広海選手（日立ICT）が2m25で入った。高張広海選手は惜しくも参加標準記録を跳べなかったものの、こちらも今後の可能性を感じる跳躍をみせてくれた。また、大学1年生になった平松祐司選手（筑波大学）は脚をつりながらも2m20をクリアし、将来有望な跳躍を見せてくれた。

女子走高跳では、大学1年生の津田シュリア選手（東大阪大学）が自己新記録となる1m81をクリアして優勝した。2位には同記録で相馬由佳選手（愛知教育大学）が入り、若手の台頭が目立った大会となった。

日本グランプリシリーズに続き、5月10日には等々力陸上競技場でセイコーゴールデングラプリ陸上2015川崎が行われた。跳躍種目からは、男子走高跳、男子棒高跳、男子三段跳、女子走幅跳が実施された。

男子走高跳は、静岡で好調であった衛藤昂選手と高張広海選手がともに2m28の世界陸上競技選手権参加標準記録をクリアした。高張広海選手は新たな参加標準記録突破者となった。

また、男子棒高跳でも山本聖途選手（トヨタ自動車）が5m50で復活の狼煙を上げた。惜しくも5m65の世界陸上競技選手権の参加標準記録突破はならなかったものの復調を感じさせる跳躍を見せてくれた。

このほか男子三段跳では長谷川大悟選手が16m35を跳んで日本人最高位を獲得し、女子走幅跳では今季6m64を跳んでいる甲斐好美選手（VOLVER）が6m03を跳ぶなどまずまずの成績を残した。

このように春季サーキットでは、北京世界陸上競技選手権に向けて期待される選手が順当な活躍をみせてくれた。いくつかの選手がまだ参加標準記録を突破できていないが、ここまでの試合を見る限り、さらに2〜3名参加標準記録を破る可能性がある。

跳躍ブロックでは、リオデジャネイロオリンピックでの目標をメダル獲得に置いて強化を進めているが、今年の北京世界陸上競技選手権はそれを達成するための大きなステップとなる。参加するだけでなく、大会本番でも複数種目で入賞できるようにしっかりと準備をしていきたいと思う。

<投擲ブロック> 部長 等々力 信弘

男子砲丸投は日本選抜陸上和歌山大会において17m48をマークした山元隼選手（中京大クラブ）が、昨年の日本選手権覇者で日本ランキング1位の畑瀬聡選手（群馬総合ガードシステム）を抑えて優勝。山元隼選手は3年前から始まった陸連主催の回転投げクリニックでアメリカ代表選手を指導しているジョージア大学コーチ、ドン パビッド氏の指導を受けるなどでの技術面の向上が良い結果に成ったと思われる結果であった。今回不調で2位に甘んじた畑瀬聡選手にも今シーズン日本記録更新が期待出来るので、今後見ごたえのある試合を期待したい。

女子砲丸投では、日本ランキングトップの横溝千明選手（日女体大職）が15m17で優勝。16m台の記録を期待したが投擲タイムングが合わず少し残念な記録であったがシーズンでの好投

を予感させる動きであった。他今シーズンに向けては、今大会で自己記録を60cm伸ばす15m15をマークし2位になった大学生の太田亜矢選手(福岡大学)も、試合前半3投までに自己記録をマークするなど安定感もあり今後記録の更新が期待できる。

円盤投は兵庫リレーカーニバルにて開催。男子においては、日本ランキングトップの堤雄司選手(群馬総合ガードシステム)が1投目に56m23をマークすると、その後一度もトップを譲ることなく優勝。期待された日本記録の更新には及ばなかったが1、2投目から好記録をマークするなど好調であり、今シーズンでの日本記録更新を期待したい。その他に今年度期待されている米沢茂友樹選手(東海大学)、安保建吾選手(東海大学)の両学生選手も54mを超える好投をみせ、それぞれ2、3位に入賞した。女子においては、中田恵莉子選手(四国大学教職員クラブ)が1投目に50m78をマークし、そのまま優勝。優勝候補の1人であった坂口亜弓選手(S.T.T)は6投目に50m75をマークしたが中田恵莉子選手に3cm及ばず2位にとどまったが、今後混戦での投げ合いからの好記録を期待したい。

男子ハンマー投第一人者の室伏広治選手(ミズノ)は、日本グランプリシリーズ、セイコーゴールデンランプリ陸上2015川崎の両大会には出場せず。6月の日本選手権が国内での最初の試合になると思われる。日本グランプリシリーズは、冬期トレーニングから好調であった野口裕史選手(群馬総合ガードシステム)に70m台の記録を期待したが、当日は出場も考える必要があるほど体調を崩し、65m41で4位の残念な結果であった。大会は田中透選手(チームミズノアスレティック)が68m06で優勝し、70m台の可能性を感じさせる投擲であった。またこの大会では67m65で2位の保坂雄志郎選手(筑波大学)が4日後の大会で70m台の記録をマークしており、今後複数選手が70m台をマークする大会を期待したい。

女子ハンマー投は綾真澄選手(丸善工業)が65m06の好記録で優勝。冬期トレーニングも順調に消化出来ており非常に良い状態でシーズンに入る事が出来ている。また、2位に渡邊茜選手(丸和運輸機関)が63m41の自己記録をマークしており、今シーズンこの2名の活躍が期待できる。

やり投は、織田幹雄記念国際陸上競技大会およびセイコーゴールデンランプリ陸上2015川崎において開催。男子やり投については、昨年86m83を投げている新井涼平選手(スズキ浜松AC)が両試合を欠場し、日本人ランキング上位の村上幸史選手(スズキ浜松AC)、長谷川鉦平選手(大体大TC)、ディーン元氣選手(ミズノ)についても低調な記録で、盛り上がり欠ける試合であった。一方、女子については、セイコーゴールデンランプリ陸上2015川崎において海老原有希選手(スズキ浜松AC)が63m80を投げ、見事に日本記録を更新した。この記録は今季世界ランキング9位に位置し、北京世界陸上競技選手権での活躍が期待できる。また男女ともに、学生を中心とした若手選手の競技レベルが向上しており、男子では75m、女子では55m前後の層が厚くなっているため、これらの選手が新井涼平選手、海老原有希選手に次ぐ世界レベルの選手に今後伸びてくる事を期待したい。

<中距離ブロック> 部長 平田 和光

1 兵庫リレーカーニバル (4月26日) 神戸

(1) 男子1500m

ペースメーカーが400m57秒、800m 1分57秒で引っ張り、楠康成選手(小森コーポレーション)、ロナルド・ケモイ選手(小森コーポレーション)、エノック・オムワンバ選手(山梨学院大学)が続いた。3周目1000m2分27秒付近でペースメーカーが外れ、ケモイ選手とオムワンバ選手が先頭に立ちペースアップ、それに反応し追走したのが戸田雅稀選手(東京農業大学)、廣瀬大貴選手(大阪ガス)であった。1200m 2分57秒でケモイ選手が通過しオムワンバ選手、戸田雅稀選手、廣瀬大貴選手と続いた。ケモイ選手、オムワンバ選手がスパート、戸田雅稀選手、廣瀬大貴選手も追走するも徐々に離された。ケモイ選手が1位(3分37秒94)でゴールした。3位戸田雅稀選手(3分42秒14)、4位廣瀬大貴選手(3分42秒15)の両名とも自己新記録であった。

(2) 女子1500m

昨年度日本ランキング1位の陣内綾子選手(九電工)が、故障の為に棄権した。レースはペースメーカーが1000mまで引っ張る予定であったが、アン・カリンジ選手(豊田自動織機)が1200mまでラップを刻む展開になった。レースはラスト勝負になり、トップを走るカリンジ選手を追走した飯野摩耶選手(東京農業大学)が、ラスト100mでスパートしカリンジ選手をかかわして1位(4分17秒67)でゴールした。自己記録に1秒3及ばなかったが、今後の可能性を感じさせられるレース展開であった。

2 静岡国際陸上競技大会 (5月3日) エコパスタジアム

(1) 女子800m

昨年日本ランキング1位大森郁香選手(東京陸協)、3位の真下まなみ選手(セレスポ)の有力選手が出場した。レースは400m59秒のハイペースで松本奈葉子選手(筑波大学)がペースメカを務めた。2周目に入ると4番手につけていた石塚晴子選手(東大阪大学敬愛高校)が順位を上げていった。500mで松本奈葉子選手がレースを外れると、石塚晴子選手が残り200mを切って2位に上がってきた。最後の直線で真下まなみ選手をかかわしてトップに立った。最後は、昨年の日本選手権覇者・大森郁香選手(東京陸協)を振り切りゴールをした。記録的には今一步であったが、スピードのある若手が台頭してきた事は、活性化を図るいいチャンスである。

(2) 男子800m

この種目の第一人者川元奨選手(スズキ浜松AC)が自身の日本記録更新を目指し出場した。ここエコパスタジアムは風の影響を受けにくく最高の条件下の元、レースに臨むことができた。レースは、ペースメーカーをマロンアジズ航太選手(自衛隊体育学校)が務め、400mを53秒台で通過、マロン選手が550mで抜けた後は、川元奨選手が600mを1分20秒後半で通過、先頭で自身の記録への挑戦であったが、この時点からペースが上がっていったが、400mまでのラップが若干遅くなってしまい記録の更新はならなかった。高校記録保持者の前田恋弥選手(明治大学)は体調が不十分であったが、積極的なレースを披露し今後の可能性を感じさせるレースであった。

3 セイコーゴールデンランプリ陸上2015川崎 (5月10日)

(1) 男子800m

この種目の第一人者川元奨選手(スズキ浜松AC)が自身の日本記録更新と世界陸上競技選手権参加標準記録突破を目指し出場した。ペースメーカーとして500mまで横田真人選手(富士通)が引っ張った。400m51秒8で通過し、川元奨選手は中盤より後ろでレースを進めていたがラスト300m過ぎから前に上がろうとしたが伸びず1分46秒79の4位に終わった。

(2) 女子1500m

日本からは、飯野摩耶選手(東京農業大学)、須永千尋選手(資生堂)が出場した。400m(62秒)、800m(2分09秒)、1200m(3分14秒)のハイペースでレースは進んだ。飯野摩耶選手、須永千尋選手については、高速レースに対応出来なく前半から後方でレースを進めざるを得なかった。1位はアンナ・ミッシュチュエン選手で4分02秒47の大会新記録であった。

4 総括

今年の日本グランプリシリーズは、8月下旬に行なわれる世界陸上競技選手権(北京)の派遣標準記録及び参加標準記録突破の挑戦、6月上旬に行なわれるアジア陸上競技選手権大会(武漢)の代表選考を兼ねた大会であった。記録突破と世界に向けた高速レースを体感させる為に、各大会にペースメーカーを設定した。大会での参加標準記録突破にはならなかったが、若手の選手が高速レースの中で積極的な走りでも上位に入賞し、自己記録更新する事が出来たのは収穫であった。しかし、世界陸上

競技選手権の参加標準記録突破者がいない厳しい状況であるので、今後選手の奮起を期待したいと思う。

<男子長距離マラソン> 部長 宗 猛

世界陸上競技選手権（北京）代表選出の条件である日本人トップと、標準記録突破を目指して、織田幹雄記念国際陸上競技大会と兵庫リレーカーニバルに多数の有力選手が出場した。

織田幹雄記念国際陸上競技大会5000mは、すでに10000mで標準記録突破を達成している鏡坂哲哉選手（旭化成）と旭化成の新人村山紘太選手、設楽悠太選手（Honda）、上野裕一郎選手（DeNA）らが出場。

村山紘太選手と鏡坂哲哉選手は、優勝したバルストン・レオナルド選手（日清食品グループ）を含む外国人グループに入り積極的にレースを進めたが、まず鏡坂哲哉選手が苦しくなり遅れた。村山紘太選手も3600mで先頭集団の後方から一気に2番手まで上がったのが無駄な動きになり、その後失速。設楽悠太選手と堂本尚寛選手（JR東日本）に残り2周で吸収された。しかし、村山紘太選手は得意のラストスパートで2人を突き放し、自己記録の13分31秒35をマーク。最低限の目標である日本人トップを確保した。

兵庫リレーカーニバルの10000mは自己ベスト記録が、標準記録に7秒以内に迫る宮脇千博選手（トヨタ自動車）、村山謙太選手（旭化成）、設楽啓太選手（コニカミノルタ）が出場。

日本人選手のペースメーカーのポール・タヌイ選手（九電工）が標準記録突破のための理想的なペースメイクをしたが、そのペースにつけず一人二人と遅れ、4000mからはタヌイ選手と村山謙太選手だけになった。その村山謙太選手も5000mを13分56秒で通過した後から苦しくなり6000mでペースダウン。28分09秒28と平凡な記録に終わったが、兄弟揃って日本グランプリ日本人1位となった。日本人2位は織田幹雄記念国際陸上競技大会同様に堂本尚寛選手が入り、好調さを印象付けた。

3000mSCは前日のユニバーシアード代表選考レース（10000m）を積極的な走りで行ったが、制した潰滝大記選手（中央学院大学）が先頭に立ったが、スローペースの展開となった。松本葵選手（大塚製薬）が終盤先頭に立ったが、最後まで我慢した篠藤淳選手（山陽特殊製鋼）が満を持してスパートし交わって優勝した。潰滝大記選手は3位だった。

日本グランプリシリーズでそれぞれ日本人1位に入った村山兄弟は、5月9日に行われたゴールデンゲームズinのべおかで世界陸上競技選手権参加標準記録を突破（村山謙太選手27分39秒95、村山紘太選手13分19秒62）し、北京世界陸上競技選手権出場へ近づいた。

<女子長距離マラソン> 部長 武富 豊

第15回世界陸上競技選手権（北京）の代表選考競技会を兼ねた日本グランプリシリーズの初戦として行われた織田幹雄記念国際陸上競技大会女子5000mだったが、すでに参加標準記録（15分20秒00）を突破している鈴木亜由子選手（日本郵政グループ）、松崎璃子選手（積水化学）が故障のため出場を見合わせた事もあり、清田真央選手（スズキ浜松AC）、清水美穂選手（ホクレン）等が何処まで参加標準記録突破に近づく事が出来るかを期待した。レースは清水美穂選手が1000mの通過を3分02秒で入り、2000mを6分07秒と積極的に記録を狙ったが、後半は優勝したローズメリー選手（スターズ）のペースアップに対応出来ず、失速して平凡なタイムに終わった。日本選手のトップは清田真央選手が15分42秒80の4位、菊池理沙選手（日立）が5位、6位に終わったが清水美穂選手は、スタートからローズメリー選手が先頭で流れを作ってくれるようなレースだったら、参加標準記録突破の可能性もあると期待できる内容だった。兵庫リレーカーニバルの女子10000mでは、世界陸上参加標準記録（32分00秒）を突破している主力選手が出場を見合わせたため、大会直前に発表されたリオデジャネイロオリンピックの参加標準記録（32分15秒00）の突破を狙ったレースを期待したが、出場選手全体が大会に合わせて調整不足なのか、スタート直後から消極的なレースとなり記録への期待が無くなる平凡なレースとなった。主力選手が抜けたとは言え、今年は世界陸上競技選手

権からリオデジャネイロオリンピックを控えている重要な年だけに、女子長距離陣の低迷を打破するために、選手・指導者が一体となって取り組む必要を痛感する。また、女子3000mSCには、昨年アジア競技大会（仁川）の代表選手だった三郷実沙希選手（スズキ浜松AC）、中村真悠子選手（セレスポ）が出場し成長を期待したが、高見澤安珠選手（松山大学）が10分09秒74と平凡なタイムで優勝。高見澤安珠選手の健闘は評価するが、三郷実沙希選手、中村真悠子選手のレース内容からは大きな課題を感じる。

2015年度の日本グランプリシリーズでは、女子長距離種目で主力選手の故障等による欠場はあったものの、このままでは、世界陸上競技選手権（北京）で入賞を目指すには非常に厳しい状況である。また、長距離では若手の成長の兆しが見えるものの、女子長距離界のレベル低下・記録の低迷など、トップレベルで戦える選手の減少傾向は続いており、深刻な状況である事には変わりなく、リオデジャネイロオリンピックや東京オリンピックに向けて、長距離からマラソンを含め、根本からの立て直す強化策の必要性を感じる。

<混成ブロック> 部長 本田 陽

今年の日本グランプリシリーズ・日本選抜陸上和歌山大会は2日間とも好天気のもとで開催され、男子は16名のエントリーで2名が途中棄権、14名が競技を終了、女子は23名のエントリーで1名が事前棄権、3名が途中棄権し19名が競技を終了した。

男子は昨年アジア競技大会で活躍した右代啓祐選手（スズキ浜松AC）と中村明彦選手（スズキ浜松AC）の2選手に注目が集まったが、初日の好条件を活かし100mで10秒52（追風2.4m）、走幅跳7m48と序盤で波に乗った中村明彦選手が2日目も好調子を維持し、自身2度目となる8000点オーバーの自己新記録8043点で優勝した。右代啓祐選手は得意の投てき種目や棒高跳などの技術系種目がまだ安定せず、7739点に終わり、2009年以來久しぶりに十種競技で日本人選手に後塵を浴びることとなった。右代啓祐選手に関しては、今年は北京世界陸上競技選手権の結果が最優先であるため、本番に向けて5月末に予定されているIAAF（国際陸連）混成競技大会（ゲチス・オーストリア）、7月の日本陸上競技選手権混成と徐々に調子を上げて行くことが期待される。

男子100mでは追風2.4mと17mの好条件のもと中村明彦選手の10秒52を始め、音部拓仁選手（富士通）の10秒54、川崎和也選手（順天堂大学大学院）の10秒72など好記録が続出した。初日を終え中村明彦選手は4252点の初日自己最高（非公式日本最高）で北京世界陸上競技選手権の参加標準記録8075点、さらには来年のリオデジャネイロオリンピック参加標準記録8100点も狙える状況であったが、2日目の110mハードルの向風（-1.8m）、投てき種目、棒高跳などで得点が伸ばせず8043点に終わった。しかしながら、シーズン初戦のこの時期に自己ベストを更新したこと、昨年に引き続き2度目の8000点オーバーであることなど非常に大きな意味のある結果であった。

男子では8位までが日本選手権A標準である7000点をオーバーする記録となり、前述の川崎和也選手（この大会後の関東学生陸上競技対抗選手権大会で7644点の自己ベストをマーク）をはじめ、武内勇一選手（東京学芸大学）、坂本都志記選手（鹿屋体育大学）、右代啓祐選手（国士舘大学）など次世代を担う大学生選手の台頭が目立った。

女子では昨年高校生アスリートして七種だけではなく多種目にわたって大活躍したハンプヒル恵選手（中央大学）が大学進学後も順調に成長し、5678点の日本ジュニア記録・日本学生記録で初優勝した。これまでどちらかといえば苦手であった跳躍種目の成長が著しく、得意の走種目と合わせて今後益々の活躍が期待されるが、混成ブロックとしては2020年の東京オリンピックに向けて大きく育成していきたい人材である。

七種競技2位には昨年までの自己ベスト記録（5216点）を大幅に更新して5460点をマークした宇都宮絵莉選手（園田学園女子大学）が入ったが、今大会3位の桐山智衣選手（モンテローザ）などの社会人選手と共に国際舞台から遠ざかりつつある女子混成界を底上げする人材の一人になってもらいたい。

JAAFアスリート発掘育成プロジェクトクリニック事業について

普及育成委員会

陸上競技の普及活動とタレントの発掘・都道府県陸協との連携を行うことを目的として、2009年度よりスポーツ振興くじ助成金の助成を受け開催してきた。2014年度までの開催実績はU-13(小学生対象):55会場、U-16(中学生対象):69会場、U-19(高校生対象):40会場の全国144会場で開催することができた。これもひとえに講師として派遣している委員会の先生方、参加者の募集から当日の運営まで対応いただける開催地陸協の先生方の多大なるご協力の賜物と感謝いたします。2013年度からはU-19(高校生)のカテゴリーは終了し、U-13(小学生)、U-16(中学生)に絞って開催している。開催地は、日本全国を9ブロックに分け各ブロックで、それぞれすべてのカテゴリーの教室を開催するという条件で各教室の開催県を各地域陸協で決定した。2014年度はU-13(9会場)、U-16(11会場)、合計20会場で開催し、講師を全国に派遣した。全国で2,399名の選手を対象に指導し、地方での取り組みや有望選手の情報

収集を行うことができた。

U-13クリニックは、午前中に開講式、水分補給に関する講義に引き続き、楽しい遊びを中心とした基本の運動の講習を行い、午後は種目別の実技を開催した。また保護者、指導者向けに午前中に発育発達に関する講義を、午後に食育の講義を開催した。

U-16クリニックは、午前中に開講式に続いて、走、跳、投の基本練習を3グループ分けローテーションで行った。午前中の最後に全員にコントロールテスト(片足ホッピング、クイックジャンプ)を実施した。また、お昼休みの合間に大塚製薬様より栄養に関する講習を実施した。午後は種目別に専門練習を行った。また、当日参加している指導者向けに、発育発達に関する講義を実施した。

2015年度もU-13(小学生):9会場、U-16(中学生):9会場で開催を予定している。本年度も数多くの小学生、中学生に陸上競技の基本と楽しさを伝えていきたいと考えている。



U13クリニック福島会場

<2014年度実施会場>

U13(小学生対象)		
開催日	都道府県	開催競技場
7月27日(日)	愛媛	愛媛県総合運動公園陸上競技場
8月17日(日)	北海道	小樽市手宮公園陸上競技場
9月7日(日)	東京	味の素ナショナルトレーニングセンター陸上トレーニング場
9月15日(月)	福島	信夫ヶ丘競技場
10月5日(日)	滋賀	甲賀市水口スポーツの森陸上競技場
11月2日(日)	鹿児島	日置市伊集院総合運動公園陸上競技場
11月24日(月)	山口	維新百年記念公園陸上競技場
12月14日(日)	福井	三国運動公園陸上競技場
3月15日(日)	三重	三重県営総合競技場陸上競技場
U16(中学生対象)		
開催日	都道府県	開催競技場
8月17日(日)	北海道	北見市東陵公園
8月31日(日)	沖縄	名護市宮陸上競技場
11月16日(日)	岩手	金ヶ崎町森山総合公園陸上競技場
11月23日(日)	新潟	デンカビッグスワンスタジアム
11月30日(日)	佐賀	佐賀県総合運動場陸上競技場
12月7日(日)	静岡	静岡県草薙総合運動場陸上競技場
12月14日(日)	茨城	笠松運動公園陸上競技場
12月20日(土)	京都	京都府丹波自然公園陸上競技場
1月18日(日)	群馬	正田醤油スタジアム群馬
1月25日(日)	鳥取	コカ・コーラウエストスポーツパーク陸上競技場
3月22日(日)	高知	春野総合運動公園補助競技場



U16クリニック新潟会場

<2015年度実施会場>

U13(小学生対象)		
開催日	都道府県	開催競技場
7月26日(日)	滋賀	甲賀市水口スポーツの森陸上競技場
8月1日(土)	茨城	県立笠松運動公園陸上競技場
8月15日(土)	広島	東広島運動公園陸上競技場
9月26日(土)	北海道	千代台公園陸上競技場
10月4日(日)	香川	香川県立丸亀競技場
11月1日(日)	青森	引前市運動公園陸上競技場
11月22日(日)	熊本	熊本県民総合運動公園陸上競技場
11月29日(日)	新潟	デンカビッグスワンスタジアム
12月20日(日)	静岡	静岡県草薙総合運動場陸上競技場
U16(中学生対象)		
開催日	都道府県	開催競技場
8月9日(日)	北海道	釧路市民陸上競技場
9月19日(土)	広島	広島県総合グランド陸上競技場
9月26日(土)	沖縄	西崎陸上競技場
11月22日(日)	富山	富山県総合運動公園
12月6日(日)	愛知	パロマ瑞穂スタジアム
12月13日(日)	徳島	鳴門・大塚スポーツパーク第二陸上競技場
12月19日(日)	鹿児島	鹿児島県立鴨池陸上競技場
1月23日(土)	宮城	ひとめぼれスタジアム宮城
3月12日(土)	栃木	栃木県総合運動公園陸上競技場



第15回世界陸上競技選手権大会(2015／北京)

2015.6.1現在

マラソン・競歩日本代表選手

8月22日から30日まで中国・北京で開催される第15回世界陸上競技選手権大会。

マラソン・競歩の日本代表選手を紹介致します。

【マラソン男子3名】



今井 正人 (いまい・まさひと)
トヨタ自動車九州・福岡
1984/04/02 生
小高中学校→原町高校(福岡)
→順天堂大学→トヨタ自動車九州

選考大会成績：2015東京マラソン7位

(日本人1位) 2時間07分39秒

世界選手権出場回数：初出場

自己ベスト：2時間07分39秒

(2015東京マラソン)

主な実績：

2011年 福岡国際マラソン4位

2014年 別府大分毎日マラソン2位

2014年 ニューヨークシティマラソン7位

〈大会に向けての抱負〉世界と戦えるチャンスをいただいた事に感謝しています。初の世界選手権ですが、自分らしく攻めの走りをしたいと思います。その中で楽しむ余裕を持ちながら走りたいです。アフリカ勢にチャレンジします。

〈種目の魅力〉マラソンは何と言ってもゴール後の達成感だと思います。競技者やファンなど関係無く、事前から準備をして臨まれると思いますし、走っている時は自分自身との闘いだと思います。それに勝ち、ゴールした時は何とも言えない感情になれます。そしてまたチャレンジしたくなる事でしょう。



前田 和浩 (まえだ・かずひろ)
九電工・福岡 1981/04/19 生
白石中学校→白石高校(佐賀)
→九電工
選考大会成績：2015びわ湖毎日マラソン4位

(日本人1位) 2時間11分46秒

世界選手権出場回数：2大会連続4回目

(2015/2013/2009/2007)

自己ベスト：2時間08分00秒

(2013東京マラソン)

主な実績：

2013年 東京マラソン4位

2013年 世界選手権17位

2014年 ベルリンマラソン16位

〈大会に向けての抱負〉今大会で世界選手権のマラソン出場は3度目になりますが、過去の2大会では前半から勝負に加われず悔しい結果となりました。今回は、日本代表としての自覚と責任感を胸に、万全の態勢で挑める様、精一杯努力していきます。当日は、入賞を目指し全力を尽くして頑張ります。

〈種目の魅力〉〈達成感〉です。マラソンは、「苦しい・足が痛い・長い」等に加え、練習量も多く、私生活でも我慢しなければいけないこともあります。しかし走り切った後、また記録が出た時の喜びや達成感は何物にも代え難いものがあります。



藤原 正和 (ふじわら・まさかず)
Honda・埼玉 1981/03/06 生
大河内中学校→西脇工業高校(兵庫)
→中央大学→Honda
選考大会成績：2014福岡国際マラソン4位

(日本人1位) 2時間09分06秒

世界選手権出場回数：2大会連続2回目*2003年パリ大会は欠場

自己ベスト：2時間08分12秒

(2003びわ湖毎日マラソン)

主な実績：

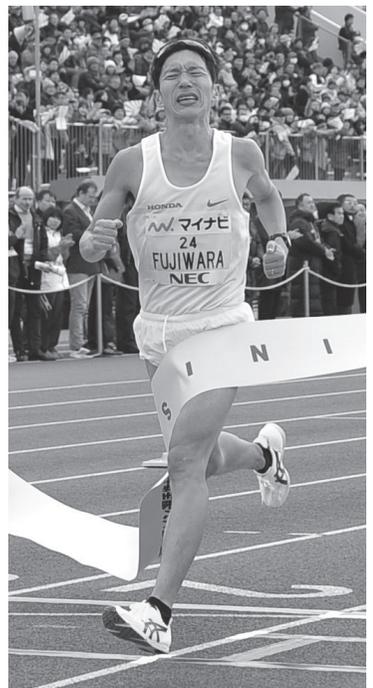
2010年 東京マラソン1位

2013年 びわ湖毎日マラソン4位

2013年 世界選手権14位

〈大会に向けての抱負〉モスクワ大会では、14位という悔しい結果でした。今大会では、あの悔しさを糧に8位入賞を目指し、リオオリンピックに繋げていきたいと思っています。

〈種目の魅力〉マラソンは、東アフリカ勢が強力ですが、夏の耐久レースではまだまだ日本人も戦えます。30kmを過ぎてからの駆け引きと、一瞬のスパートを見逃さぬよう、是非TVでご声援下さい！



【マラソン女子3名】



前田 彩里 (まえだ・さいり)
 ダイハツ・大阪
 1991/11/07 生
 大津北中学校→熊本信愛女学院高校(熊本)→佛教大学→ダイハツ

選考大会成績：2015名古屋ウイメンズマラソン3位
 (日本人1位) 2時間22分48秒
世界選手権出場回数：初出場
自己ベスト：2時間22分48秒
 (2015名古屋ウイメンズマラソン)
主な実績：
 2014年 大阪国際女子マラソン4位
 (日本人1位)
 2015年 名古屋ウイメンズマラソン3位
〈大会に向けての抱負〉 日本人最上位で入賞
〈種目の魅力〉 走る時間が長い分、たくさんの応援をもらえるので、あなたの応援が私の力になります。応援よろしくお願いします。



伊藤 舞 (いとう・まい)
 大塚製薬・徳島
 1984/05/23 生
 平城東中学校→京都橘高校(京都)→京都産業大学→デンソー→大塚製薬

選考大会成績：2015名古屋ウイメンズ東京マラソン4位
 (日本人2位) 2時間24分42秒
世界選手権出場回数：2大会ぶり2回目(2015/2011)
自己ベスト：2時間24分42秒
 (2015名古屋ウイメンズマラソン)
主な実績：
 2011年 世界選手権 22位
 2013年 ロンドンマラソン7位
 2014年 東京マラソン7位
〈大会に向けての抱負〉 目標は日本人トップで入賞し、リオデジャネイロオリンピックへつなげること。目標を達成できるように粘り強く走ります。
〈種目の魅力〉 レース展開やコンディション、体調などによって結果が変わるところ。心技体のバランスが大切な競技。



重友 梨佐 (しげとも・りさ)
 天満屋・岡山
 1987/08/29 生
 備前中学校→興譲館高校(岡山)→天満屋

選考大会成績：2015大阪国際女子マラソン3位
 (日本人1位) 2時間26分39秒
世界選手権出場回数：初出場
自己ベスト：2時間23分23秒
 (2012大阪国際女子マラソン)
主な実績：
 2012年 大阪国際女子マラソン1位
 2012年 オリンピック 79位
 2013年 ニューヨークシティマラソン11位
〈大会に向けての抱負〉 再び世界で戦うチャンスもなかったので、オリンピックでの失敗や経験を活かした走りがしたい。
〈種目の魅力〉 42kmと距離がある分、最後まで何がわかるか分からない所は、おもしろい部分だと思います。(観る側も、走る側も)



【男子20km競歩3名】



鈴木 雄介(すずき・ゆうすけ)
 富士通・千葉 1988/01/02 生
 辰川中学校→小松高校(石川)
 →順天堂大学→富士通
選考大会成績：2015全日本競歩
 歩能美大会 20km競歩 1位
 1時間16分36秒

2015日本選手権 20km競歩 2位
 1時間18分13秒
 2014アジア競技大会 20km競歩 2位
 1時間20分44秒
世界選手権出場回数：4大会連続4回目
 (2015/2013/2011/2009)
自己ベスト：20km競歩 1時間16分36秒
 (2015全日本競歩能美大会)
主な実績：
 2011年 世界選手権 20km競歩 8位
 2012年 オリンピック 20km競歩 36位
 2013年 世界選手権 20km競歩 12位
〈大会に向けての抱負〉 今シーズンは世界記録を出して勢いに乗っていると思います。そして、応援してくださる皆様からの期待もかなり大きいものと感じています。そのプレッシャーを力に変えて優勝したいと思いますので、遠慮せず応援していただきたいと思います。
〈種目の魅力〉 競歩は失格のある種目になります。そのルールがあるおかげで、選手は速さだけではなく、美しさも求めなければなりません。そのため、単純に競争する陸上競技としての楽しみ方と、ある種採点競技にも似た観戦の仕方ができると思います。あまり深く考えずに楽しんでいただければと思います。



高橋 英輝(たかはし・えいき)
 富士通・千葉
 1992/11/19 生
 宮野目中学校→花巻北高校(岩手)
 →岩手大学→富士通
選考大会成績：2015日本選手権 20km競歩 1位



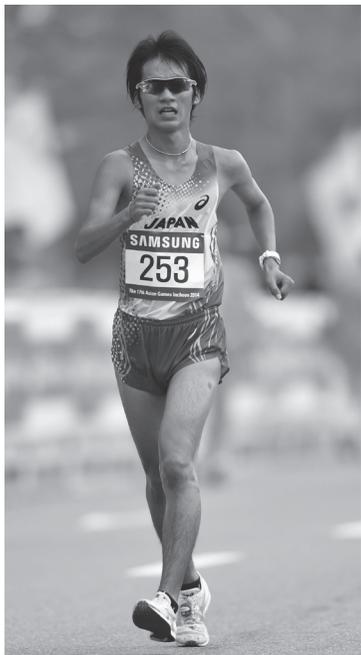
鈴木雄介

1時間18分03秒
 2014アジア競技大会 20km競歩 7位
 1時間24分04秒
世界選手権出場回数：初出場
自己ベスト：20km競歩 1時間18分03秒
 (2015日本選手権)
主な実績：
 2013年 ユニバーシアード 20km競歩 9位
 2014年 アジア競技大会 20km競歩 7位
〈大会に向けての抱負〉 北京世界陸上では、8位入賞を目標に準備を進めていきます。また、鈴木雄介選手を目標にレースを進めていく中で、メダル獲得のチャンスも出てくると 생각합니다。自分らしく思い切りの良い攻めのレースを展開して頑張ります。
〈種目の魅力〉 私が出場する20km競歩は「1km 4分」という走りに匹敵する非常に速いペースを目安にして、激しいペース変化や駆け引きが繰り返され、最後まで勝負が分からず見ている方も楽しめると思います。また、世界のトップ選手は非常にきれいで美しいフォームで20kmを歩き切るの、楽しいフォームも注目してほしいと思います。



藤澤 勇(ふじさわ・いさむ)
 ALSOK・東京
 1987/10/12 生
 高社中学校→中野実業高校(長野)
 →山梨学院大学
 →ALSOK
選考大会成績：2015全日本競歩
 歩能美大会 20km競歩 2位
 1時間19分08秒

世界選手権出場回数：3大会ぶり2回目
 (2015/2009)
自己ベスト：20km競歩 1時間19分08秒
 (2015全日本競歩能美大会)
主な実績：
 2009年 世界選手権 20km競歩 30位
 2010年 アジア競技大会 20km競歩 4位
 2012年 オリンピック 20km競歩 18位



高橋英輝

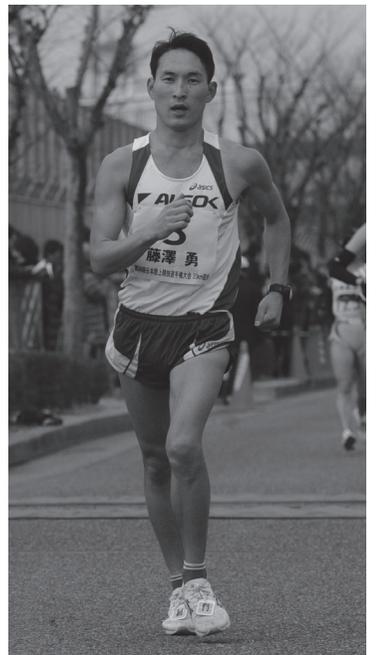
〈大会に向けての抱負〉 6年ぶりの世界選手権代表に選んでいただいたことに感謝をし、これまで不調の期間を支えて下さった多くの方々のために恩返しができるよう全力を尽くして頑張ります。目標は、1時間19分台を出して6位以内に入賞することです。
〈種目の魅力〉 競歩は、厳しい2つのルールを守りながら足の先まで神経を尖らせて1番を目指していきます。マラソンよりも倍の苦しみを伴いますが、ゴールできた時の喜びも倍になります。日本勢のメダル獲得が期待される今大会において私もその争いに加われるよう頑張ります。

【男子50km競歩3名】



谷井 孝行(たにいたかゆき)
 自衛隊体育学校・埼玉
 1983/02/14 生
 滑川中学校→高岡向陵高校(富山)
 →日本大学→佐川急便(現SGHグループ)
 →自衛隊体育学校
選考大会成績：2015日本選手

権 50km競歩 2位
 3時間42分01秒
 2015日本選手権 20km競歩 12位
 1時間24分01秒
 2014アジア競技大会 50km競歩 1位
 3時間40分19秒
世界選手権出場回数：6大会連続6回目
 (2015/2013/2011/2009/2007/2005)
自己ベスト：50km競歩 3時間40分19秒
 (2014アジア競技大会)
主な実績：
 2011年 世界選手権 50km競歩 9位
 2013年 世界選手権 50km競歩 9位
 2014年 アジア競技大会 50km競歩 1位
〈大会に向けての抱負〉 2大会連続9位と悔しい結果だったので今回こそ8位以内に入ります。上位陣とメダル争いをしていきたいです。
〈種目の魅力〉 50km競歩は、約4時間における長丁



藤澤 勇

場のレースになります。それだけに順位の変動も大きく歩型による失格等、最後まで勝負がわからないので目が離せないのが魅力です。最後まで力をふりしぼって歩く選手の姿にぜひ注目してください。



荒井 広宙(あらいひろおき)
自衛隊体育学校・埼玉
1988/05/18 生
小布施中学校→中野実業高校
(長野)→福井工業大学→石川
陸協→北陸亀の井ホテル→自
衛隊体育学校
選考大会成績：2015日本選手

権 50km 競歩 1位
3時間40分20秒
2015日本選手権 20km 競歩 3位
1時間20分35秒
2014全日本50km競歩高島大会 50km 競歩 1位
3時間40分34秒
世界選手権出場回数：3大会連続3回目
(2015/2013/2011)
自己ベスト：50km 競歩 3時間40分20秒
(2015日本選手権)
主な実績：

2011年 世界選手権 50km 競歩 10位
2013年 世界選手権 50km 競歩 11位
(大会に向けての抱負) 今回で3回目の出場となります。過去2大会とも納得できる結果を残せていませんが、ここ最近で力がついてきていますので、北京世界陸上選手権で入賞・チャンスがあればメダルを目標に精一杯努力していきます。
(種目の魅力) 競歩は、陸上競技で唯一の判定種目でありフォームにルールがあります。そのため速さを競うだけでなく、審判から失格を受けないよう歩く必要があります。審判との戦いもあります。選手、そして審判との駆け引きを見て頂けたらと思います。



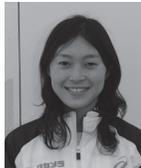
谷井孝行



山崎 勇喜(やまざきゆうき)
自衛隊体育学校・埼玉
1984/01/16 生
杉原中学校→富山商業高校(富山)
→順天堂大学→長谷川体
育施設→自衛隊体育学校
選考大会成績：2015日本選手

権 50km 競歩 3位
3時間43分40秒
世界選手権出場回数：3大会ぶり4回目
(2015/2009/2007/2005)
自己ベスト：50km 競歩 3時間40分12秒
(2009日本選手権)
主な実績：
2008年 オリンピック 50km 競歩 7位
2008年 オリンピック 20km 競歩 11位
(大会に向けての抱負) 入賞目指して持っている力を出し切って頑張ります。
(種目の魅力) 歩く競技ですが、1km 4分10秒から30秒で歩いていきます。フルマラソンを約3時間で通過してきます。歩くのですが、とにかく速いです。順位もめまぐるしく変わるので見応えがあります。

〔女子20km競歩1名〕



岡田 久美子(おかだくみこ)
ビックカメラ・東京
1991/10/17 生
上尾東中学校→熊谷女子高校
(埼玉)→立教大学→ビックカメラ
選考大会成績：2015全日本競
歩能美大会 20km 競歩 1位

1時間29分46秒
2015日本選手権 20km 競歩 1位
1時間31分57秒
世界選手権出場回数：初出場
自己ベスト：20km 競歩 1時間29分46秒
(2015全日本競歩能美大会)
主な実績：
2010年 世界ジュニア選手権 10000m 競歩 3位



荒井広宙

2011年 ユニバーシアード 20km 競歩 16位
(大会に向けての抱負) 入賞して、リオオリンピックの切符をつかみたいです。応援よろしくお願ひします。
(種目の魅力) 失格がある分、最後のゴールまで何が起るかわからない競技です。長い距離(20kmや50km)を美しいフォームで歩き切ったあとの達成感はとても大きいです。



山崎勇喜



岡田久美子

大会ウェブサイト

<http://www.iaaf.org/competitions/iaaf-world-championships>

国際陸上競技連盟(IAAF)クロスカントリー委員会報告

IAAFクロスカントリー委員会委員 澤木啓祐

IAAFクロスカントリー委員会の年に一度の定期会合が、世界クロスカントリー選手権(以下、世界クロカン)が開催された翌日3月29日(日)に中国の貴陽でおこなわれた。

委員会はケニアのオケヨ氏が委員長を務め、以下、チュニジア、ウガンダ、イギリス、ポルトガル、スウェーデン、スペイン、オーストラリア、イタリア、ベネズエラ、ロシア、カナダそして日本からの委員とあわせて13名で構成されているが、4年の任期の最後であった今回は、イギリスとベネズエラが欠席した。

主な議題は下記の通りであった。

1. 委員長挨拶
2. IAAF近況報告
3. 前回議事録承認
4. 世界クロカン
 - ・2015貴陽大会講評
 - ・2017カンバラ大会準備状況
5. 将来構想
 - ・クロカンの現状分析
 - ・世界クロカンの日程、コース、実施形式、距離、団体戦のサイズ、予算、賞金
 - ・クロカンのグローバルイメージ向上
 - ・クロカン普及策としてのセミナーやワールドアスレチックデーの実施など
 - ・将来展望
6. IAAFパーミットクロカン大会
 - ・2014-2015シーズンの評価
 - ・2015-2016スケジュール
7. 協力団体である世界マウンテンランニング協会(WMRA)からの報告
8. エリア活動報告
 - ・エリアでのクロカンセミナー
 - ・エリア選手権

特筆すべき内容について以下に詳述するが、議題の中にあるエリア活動報告に関し、アジアからのメンバーは、私人だけであることから、2014年に福岡で開催されたアジアクロカン及びクロカンセミナーについてアジアを代表して、私から報告させていたことを申し添える。

【世界クロカンの講評】

これまでヨーロッパでの開催に比べ、それ以外のエリアでの世界クロカンでは、参加国数が大幅に減少する傾向があったが、今回は、IAAF会長自ら各国に直接参加を呼びかけたこともあり、参加国数としては51となり、ヨーロッパ開催と遜色のないものとの評価であった。一方で、IAAFの補助により、クロカンに無縁だった国の複数が初参加していたことから、クロカンの普及面ではプラスであるものの、レベルの高さとしては疑問視する指摘もあった。実際、エリア別の参加割合分析が報告されたが、アジアは過去より上昇の22.3%に対し、ヨーロッパは減って60.9%であったという。

コースについては、委員会がこれまで要望し続けた前回のビドゴシチ大会で実現した「世界クロカンに相応しい起伏や障害物の多いコースの設定」を、貴陽は継承したことが高く評価された。

その他、これまでも提議されてきた国籍変更問題が、今回も話題になった。また今回、ジュニアで出場していた何人かの選手は、実際にはシニアなのではないかとの疑念があるとのこと、現在、パスポートでおこなっている年齢確認の方法についても話題となった。

【2017年カンバラ大会】

今回の世界クロカンは、2年後、2017年にケニアの隣国ウガンダのカンバラで開催される。同国のアイコル委員からは、3月26日に実施の予定であることが報告されるとともに、治安については問題がないとのコメントがあった。ウガンダは、本年、世界学生クロカン選手権をホストした実績があり、運営についても入念な準備をおこなっているとのことであった。2年後のコースは、学生クロカンとは別の場所を予定しているとのことであった。

今後の世界クロカンの実施については、日程、コース、実施形式、距離、団体戦のサイズ、予算、賞金など細かい点において、

改善が検討されているので、2年後には、何らかの変更のもとでの開催になる可能性もある。

【WMRA活動報告】

WMRAは、「世界マウンテンランニング協会」の略称である。ウルトラマラソンなどと同様、IAAFの協力団体として認知されており、クロカン委員会や道路ランニングコミッションには、これまで、代表者がオブザーバーとして出席し共通する問題について話し合いを持ってきた。今回の会合には、ゴゼリーノ会長は欠席だったが、年々参加者が増回し人気が高まるマウンテンレースの現状を鑑み、これまで、マウンテンレースの規則が、ルールブックの中でクロスカントリーの項に含まれていたものが、マウンテンランニングとして独立したことが報告された。

【クロカン活性化に向けた将来構想】

今回の会議で最も時間を割いたのが、世界クロカン参加者減に危機感を覚える委員会による将来構想の議論であった。「現状と課題」と「今後への提案」の2項目についてレポートがまとめられIAAF理事会に提案されることになったが、おおよそその内容となっている。なおこれらはIAAF内での決定事項ではなく、今後、IAAF理事会で慎重に検討されていくことになる内容であるのでご留意いただきたい。

◆現状と課題

1. クロカンへの参加人口が少ないことについて、各国陸連、クラブチーム、学校、ランニングコミュニティを通して、クロカン愛好者を増やすべきである。
2. 世界クロカンへの参加総数を増やすとともに、トップ選手の参加も増やすべきである。
3. 各地で開催されるIAAFパーミット大会への参加者を増やすべきである。
4. 各地でより多くのクロカン大会が開催されるためには、各国陸連やエリア陸連がクロカン大会開催のノウハウを知るべきである。
5. 陸上競技種目としてのクロカンの認知度を高めブランド化すべきである。
6. クロカンをオリンピック種目にするのは委員会の長年の希望である。

◆今後への提案

1. 世界クロカン開催は、現状の3月末ではなく、3月第1週が望ましい。
2. シニア男子の距離を10kmにすること。
3. シニア女子の距離を10kmにすること。
4. 8月の改選により新たに選出された委員会メンバーは、世界クロカンの種目として、クロカンリレーの導入を検討すべきこと。
5. 世界クロカンに参加する各国陸連へのクォータ(補助割合)の見直しをし、よりトップランクの選手が参加しやすいようにすべきこと。
6. 世界クロカンに参加する各国陸連の旅費補助を一部でなく満額負担とすべきこと。
7. エリア選手権のジュニア優勝者は、翌年シニアになってしまうと、現状、補助対象から外されてしまうが、クラスが変わっても「優勝者」として補助が受けられるべきこと。
8. 世界クロカンの賞金の見直しをし、チーム賞金を増額すること。
9. 各国陸連がクロカン選手権を開催することの義務付けをすべきこと。
10. 世界各地域にあるIAAF地域普及センター(RDC)でのクロカントレーニングをテーマとしたコース開催をすべきこと。
11. 2014年に世界各地で開催したエリアクロカンセミナーを継続開催すべきこと。
12. アジアなど世界全エリアでクロカン委員会を設置し、ちゃんと活動させること。
13. クロカンをユースオリンピックの種目にする。
14. クロカンをオリンピック種目にするための働きかけを継続すること。

第1回アジアユース陸上競技選手権大会報告

強化委員会強化育成部副部長 前野 一浩

日本選手団役員 (10名)

監督	前野 一浩	日本陸連強化委員会 強化育成部 副部長
渉外	舟橋 昭太	日本中学校体育連盟 常務理事
コーチ(短距離)	高橋 和裕	日本陸連強化委員会 強化育成部 委員
コーチ(長距離/競歩)	石田 大介	日本陸連強化委員会 強化育成部 委員
コーチ(跳躍)	赤井 裕明	日本陸連強化委員会 強化育成部 委員
コーチ(投擲)	秋本 純男	日本陸連強化委員会 強化育成部 委員
ドクター	金子 晴香	日本陸連医事委員会 委員
トレーナー	東 千夏	日本陸連医事委員会 トレーナー部 部長
総務・渉外	大嶋 康弘	事務局 事業部 部長
渉外	河合江梨子	事務局 事業部

1 はじめに

第1回アジアユース陸上競技選手権大会が5月8日～11日、カタールのドーハで行われた。日本選手団は、男子9名、女子9名、役員10名の若いチーム編成で臨んだ。海外遠征・国際大会が初めての選手がほとんどであったが、堂々と大会に参加し結果を残してくれた。

5月4日羽田空港での結団式には、山崎一彦強化育成部部長が激励に来て、①成功体験、②失敗体験、③いろいろな経験、④友人・ライバル作り、⑤視野を広げるなど、ユースで経験して、今後ジュニア・シニアとつなげ大きく活躍してほしいと挨拶があった。また、現地入りしてからは、会議出席のためドーハを訪れていた横川浩会長と2015ワールドリレーズ(バハマ)から駆けつけてくれた尾縣賢専務理事から激励をしていただいた。

2 生活環境

ドーハの天候は暑い一言。午前中に40度近くになり、午後は42度近くの日もあった。又、ホテル・競技場の周りは、ビル・ホテル・商業施設など建設工事で、騒音と埃がすごかった。しかし、宿舎となったホテルは、過ごしやすかった。食事はバイキングで食材のバランスが良く、日本選手団にも十分に納得できる食事内容であった。大会会場までのアクセスは、マイクロボス10分位で問題なくスムーズに運行されていた。

3 競技会運営

やはりアジアの大会という感じがした。予選がなくなったり、タイムテーブルやさまざまな変更があった。

スタートリストやリザルトなどが遅く、日本の競技運営と比べるといらいらす事が多かった。

スタッフは、選手のためにいち早く情報収集をするともに、選手には不安のない環境を作り、ベストコンディションで大会に臨めるよう細かいミーティングを行っていた。

第1回アジアユース陸上競技選手権大会 リザルト

男子 (9名)

種目	氏名	所属	日付	予選	日付	準決勝	日付	決勝	備考
100m	木下 博貴	中大大附属中京高校	5月8日	11.05(+0.1) 1位通過	5月8日	11.13(+0.8) 4位通過	5月8日	10.89(+0.1) 5位	自己ベスト
200m	アマビエシバ 健太	浜名高校	5月10日	22.87(-1.7) 4位通過	5月10日	22.53(-0.0) 3位通過	5月11日	22.70(-1.5) 6位	
400m	梅谷穂志亜	洛南高校	5月9日	50.94 3位通過			5月10日	50.19 6位	
800m	大谷 陽	佐野日本大学高校	5月8日	2:01.79 2位通過			5月9日	1:56.02 4位	
1500m	大谷 陽	佐野日本大学高校					5月10日	4:07.27 銅メダル	
3000m	小野 知大	鶴崎工業高校					5月9日	8:37:29 銀メダル	自己ベスト
走高跳	久保木春佑	鹿児島高校					5月11日	1.95 9位	
走幅跳	酒井 由吾	南多摩中等教育学校					5月9日	7.31 銀メダル	自己ベスト
砲丸投	池川 博史	滝川第二高校					5月8日	17.51 銅メダル	
やり投	池川 博史	滝川第二高校					5月10日	59.30 6位	
10km 競歩	川野 将虎	御殿場南高校					5月11日	DNF	

女子 (9名)

種目	氏名	所属	日付	予選	日付	準決勝	日付	決勝	備考
200m	守田紗矢香	東京高校	5月10日	25.23(-0.3) 1位通過			5月11日	25.16(-1.3) 銀メダル	
200m	山田 美来	盛岡誠桜高校	5月10日	DQ(フライング)					
800m	金子 美聡	前橋育英高校					5月10日	2:15.04 銀メダル	
1500m	田中 希実	西脇工業高校					5月11日	4:25.00 銀メダル	
100mH	二本松結衣	神辺旭高校	5月9日	14.65(+1.8) 4位通過			5月9日	14.51(+2.7) 5位	
走幅跳	杉村 奏笑	千葉黎明高校					5月10日	5.90 優勝	
走幅跳	橋本 梨沙	幕張総合高校					5月10日	5.67 5位	
砲丸投	進堂 りか	生野高校					5月9日	13.59 5位	
5000m 競歩	木村 加奈	御殿場南高校					5月9日	24:59.04 銅メダル	

4 競技成績

今大会の日本選手団の成績は、金メダル1個、銀メダル5個、銅メダル3個、18人20種目でメダルを含め17種目の入賞があった。初日の5月8日、男子砲丸投決勝では、男子キャプテンの池川博史選手(滝川第二高校)が3位の投擲、銅メダルをとると、男子100mの木下博貴選手(中大大附属中京高校)は決勝5位ながらも10秒89の自己新記録をマークした。二日目の5月9日、朝の7時30分より女子5000m競歩決勝。気温と湿度が高く、悪条件の中、女子キャプテン木村加奈選手(御殿場南高校)が粘りのレースを展開し3位入賞、銅メダルを獲得した。両キャプテンの活躍に、チームジャパンが一つになり躍動した。男子走幅跳・酒井由吾選手(南多摩中等教育学校)、男子3000m・小野知大選手(鶴崎工業高校)は、自己新記録で銀メダルに輝いた。三日目の5月10日は、選手団として一番多くの人数が出場。今大会、日本選手団で唯一の金メダルに輝いたのが、女子走幅跳・杉村奏笑選手(千葉黎明高校)。4回目、リズムに乗った助走から踏み切ると大きな跳躍を見せた。6mには届かなかったものの、5m90を跳躍し、逆転で金メダルを獲得。同じく橋本梨沙選手(幕張総合高校)も5位に入賞した。二人とも、中学時代からの友人でありライバル。今後とも二人で切磋琢磨して飛躍してもらいたい。中長距離種目では、女子800m・金子美聡選手(前橋育英高校)が前半から積極的なレース展開で銀メダル。男子1500m・大谷陽選手(佐野日本大学高校)は、昨日の800m 4位の悔しさをぶつけ前半から先頭に立つレース展開で堂々の銅メダルを獲得。四日目(最終日)の5月11日は、女子200m守田紗矢香選手(東京高校)、女子1500m田中希実選手(西脇工業高校)はそれぞれ銀メダルに輝いた。全体的にメダル総数では、中国・インドに次いで3番目であった。中国は多くの選手団を編成して臨んでおり、今年の世界ユース大会に向け、強化しているものと思われる。又、インドは、男子投擲を中心に台頭してきた。

5 最後に

今回同行していただいた日本陸連事務局をはじめ、選手のパフォーマンスを100%引き出そうと考えてくださったスタッフの方々に感謝いたします。金子ドクター、東トレーナーも精力的に朝から晩まで対応してくれたおかげで、滞在期間中の大きなケガもなく対処してくれたことが好成績に結びついたと思います。また、厳しい環境の中で精一杯頑張ってくれた選手たちが、ユース、ジュニア、シニアと大きく飛躍してくれた事を祈念します。将来のオリンピック、世界陸上競技選手権に向けて一歩踏み出した大会であったと思います。

JAPAN SPORT COUNCIL

日本スポーツ振興センター
競技力向上事業

【チケット情報】

前売り

券種	S席	A席	B席	団体S席 (10枚セット)	団体A席 (10枚セット)	団体B席 (10枚セット)
一般	2,000円 オフィシャル プログラム付	1,000円	—	—	—	—

※28日(日) S席前売り券は完売いたしました。

当日売り

券種	S席	A席	B席	団体S席 (10枚セット)	団体A席 (10枚セット)	団体B席 (10枚セット)
一般	2,500円 オフィシャル プログラム付	1,500円	1,000円	22,500円	13,500円	9,000円
中・高校生	1,500円	1,000円	500円	13,500円	9,000円	4,500円
シルバー割引 (60歳以上)	1,500円	1,000円	500円	—	—	—

※前売りチケットは、一般S席、A席のみ販売

※前売り、当日S席には、オフィシャルプログラム付(当日、プログラム販売所にてお渡します)

※小学生以下は無料(S席、A席は座席数が限られています。座席エリアを指定させていただく場合もございます)

※チケットはエリア指定のみ(座席指定無し)

※各チケットでご利用頂けるエリアは、下記のとおり

	S席チケット	A席チケット	B席チケット
S席	○	×	×
A席	○	○	×
B席	○	○	○

※中・高校生、シルバー割引、中・高校生の団体を購入の際は、身分証明書の提示が必要

※車椅子席は、各エリアの最上段(座席数に限りがありますのでご了承ください)

※詳細は下記大会運営本部にお問い合わせください。

【ご注意】

- ・チケットは各開催日毎の発売です。(3日間通しではありません)
 - ・当日券は、開催日分のみの発売です。
 - ・会場内にビン、カン等の危険物の持ち込みは出来ません。
 - ・ペットを同伴してのご入場も出来ません。(盲導犬、聴導犬、介助犬等は入場できます。)
 - ・チケットの払い戻しや、座席変更は致しかねますので、ご了承ください。
 - ・再入場は可能です。チケットの紛失にはご注意ください。
- ※チケット紛失の場合は、再度購入が必要になります。

【その他】

- ・車椅子等で、入場の際に階段の利用が困難な場合は、総合案内までお越しください。
- ※詳細は下記大会運営本部にお問い合わせください。
- ・手荷物での席の確保は置き引き防止のためご遠慮願います。

【前売りチケット販売概要】

販売期間：発売開始 2015年5月11日(月) 10:00～各開催日
前日23:59まで

【販売窓口】

- ローソンチケット(Lコード:32635)
インターネット予約:ローチケ.com
電話予約:0570-084-003(要Lコード)
CVS(店頭販売):ローソン店舗(Loppi)
- チケットぴあ(Pコード:829-295)
インターネット予約:<http://pia.jp/t/>
電話予約:0570-02-9999(要Pコード)
CVS(店頭販売):チケットぴあ店舗、サークルK・サンクス、セブン-イレブン
- e+ (イープラス) インターネット予約:<http://eplus.jp/>
CVS(店頭販売):ファミリーマート店舗(ファミポート)
ファミポート操作手順:チケット⇒e+ (イープラス) ⇒スポーツ⇒その他スポーツ
- CNプレイガイド
インターネット予約:<http://www.cnplayguide.com/>
電話予約:0570-08-9999 ※10:00～18:00

【チケットに関する問い合わせ】

大会運営本部(株式会社セレスポ内)

TEL:03-5974-1192

※土曜、日曜、祝日を除く 10:00～18:00

▼問合せ先

日本陸上競技連盟事務局

TEL:03-5321-6580 FAX:03-5321-6591

(土・日祝日を除く10:00～12:00 / 13:00～18:00)

※大会の詳細は日本陸上競技連盟公式HP内、特設サイト

<http://www.jaaf.or.jp/jch/99/>で随時アップします。

第99回日本陸上競技選手権大会(混成競技) 第31回日本ジュニア陸上競技選手権大会(混成競技) 兼 第15回世界陸上競技選手権大会 (2015/北京) 代表選手選考競技会

▼期日:2015年7月4日(土)～5日(日)

▼会場:長野市宮陸上競技場 長野県長野市東和田632

▼アクセス:JR「北長野」駅下車徒歩約20分
長野電鉄「朝陽」駅下車徒歩約15分
長野電鉄バス「運動公園」下車
上信越道「須坂長野東インターチェンジ」より約20分

▼種目:男子 〈日本選手権〉十種競技
〈ジュニア選手権〉十種競技
女子 〈日本選手権〉七種競技
〈ジュニア選手権〉七種競技

▼問合せ先:一般財団法人長野陸上競技協会事務局
TEL 026-241-5155

※大会の詳細は日本陸上競技連盟公式HP内、大会ページ
<http://www.jaaf.or.jp/taikai/1275/>で随時アップします!



JAAF HOKKAIDO 一般財団法人北海道陸上競技協会

〒003-0626 札幌市白石区本通5丁目南4番11号
 KJビル3号棟2階205
 TEL.011-598-7407 FAX.011-598-7408
<http://hokkaido-rikkyo.jp/>

4月26日開催された評議員会において、任期満了に伴う役員改選が行われ、平成27年度・28年度の役員は会長以下再任されました。

- 会長 岡部 壽一
- 副会長 杉野 陸夫、瀬尾 広志、渡邊 清、八田 盛茂
- 専務理事 橋本 秀樹
- 総務委員長 瀬尾 広志 (副会長兼任)
- 財務委員長 大田 政吉 普及委員長 山村 修
- 強化委員長 高橋 巧 競技委員長 新井田 守
- 審判委員長 万年 和紀 記録・情報委員長 中島 正樹
- 施設用器具委員長 田中 真路 医事委員長 菅原 誠

平成27年度、北海道陸協の主な競技会は、6月28日サロマ湖100kmがIAU世界大会への日本代表選考競技会として開催致します。ホクレン・ディスタンスチャレンジは13回大会として土別会場、深川会場、北見会場、網走会場の4会場を舞台に開催致します。

南部忠平記念陸上は7月12日、第2回日中韓三カ国交流競技会と同日開催で昨年改装し、国際規格クラス2の認定を受けた札幌厚別公園競技場で開催致します。

8月には「咲き誇れ!北で夢みし絆の華よ」のスローガンのもと北海道では4回目となる第42回全日本中学校陸上競技選手権大会が開催されます。また、北海道マラソンは昨年より2000名増員の15000名とファンラン3000名が、国内唯一夏のフルマラソンとして日本陸連後援のもと開催致します。

JAAF AOMORI 一般財団法人青森陸上競技協会

〒038-0021 青森市安田字近野234-7
 青森総合運動公園陸上競技場内
 TEL.017-766-5457 FAX.017-782-5154
<http://www.jomon.ne.jp/arikkyo/>

法人化して、2期4年が過ぎました。多々面倒なところはあっても、組織の充実と、理事会・評議委員会の所轄事項の明確化は法人化してよかったと感じております。26年度より年度の最後の理事会評議委員会を5月から4月に移行したことで新年度の事業がスムーズに実施できる運びとなりました。

新年度の組織として、会長、理事長は継続し、副会長を4人から6人体制といたしました。業務執行理事を6名入れ替えしました。また、事業部を新設し外部からの委託事業を主として担当していただくことといたし、各部の連携を密にし、活性化と充実を図ることといたしました。いままでは、中体連主管で競技運営をしていただいておりますが、中学通信陸上青森大会・ジュニアオリンピック青森県予選会・県学新人陸上競技大会を県陸上競技協会が主管して実施することとしました。

本年度最初の青森県春季陸上競技選手権大会は、青森県宮城競技場改修のため弘前市陸上競技場で行われました。補助競技場がないため選手のウォーミングアップには大変支障があったことと感じております。この条件にもかかわらず女子の5千メートル競歩で大久保選手(弘前大学)が青森県新記録を樹立したことは年度初めの大会としては幸先良いスタートとなりました。

27年度の競技日程は、昨年とほとんど同じですが9月に東北高校新人陸上を青森県が担当することとなりました。今後開催の競技会は、5月22日～5月25日までの4日間県高校総体陸上・6月7日県定時制通信制総体・6月28日日清カップ全国小学生陸上県予選会・7月4日～5日全国中学通信陸上県大会・7月10日～12日国体・東北総体県予選会が予定されております。(文責:理事長 安田信昭)

JAAF IWATE 一般財団法人岩手陸上競技協会

〒020-0822 盛岡市茶畑2-8-27
 TEL.019-621-8460 FAX.019-656-9006
<http://long-distance.jp/iwate/>

今シーズンも春季陸上競技会を皮切りにスタートした岩手県の陸上界に素晴らしいニュースが飛びこんだ。

5月16日の一日目東日本実業団選手権が熊谷スポーツ文化公園陸上競技場で行われ、男子5000メートル競歩で高橋英輝(富士通・花巻北高一岩手大学)が18分51秒93の日本新記録を樹立して優勝したニュースである。昨年2月の男子1万メートル、今年2月の20キロに続きの日本新記録である。

社会人1年目として、新しい環境でどのような活躍をするのか注目していたが、素晴らしいスタートになったようだ。世界選手権で20キロに出場するが大いに期待したい。

新しい環境でスタートした選手も多いが、特に期待したい選手がいる。福岡中学から今年、盛岡誠誠高に入学した山田美来選手である。

昨年の全中女子200mで準Vの実績もあり、今年のアジアユース代表選手となり初の海外遠征も経験した。新しい指導者のもとで大きく飛躍することを期待したい。

今年は、昨年1500mで1年中学最高記録を出した佐々木聖選手(盛岡河南中)、インターハイ男子400m 3位の佐々木愛斗選手(盛岡南高)等楽しみな選手が多く活躍を期待したい。

希望郷いわて国体・希望郷いわて大会開催前年であり、東北総体をリハール大会として日本陸連から指導者を迎え8月に開催を予定している。

本県選手の活躍を励みに、国体の成功に向けて各種大会で審判員の研鑽を重ね、大会運営に全力で取り組んでいきたいと考えています。

JAAF MIYAGI 一般財団法人宮城陸上競技協会

〒981-0122 宮城郡利府町菅谷字館40-1宮城県総合運動公園内
 TEL.022-767-2194 FAX.022-767-2194
<http://jaaf-miyagi.com/>

東日本震災から4年を経過し、東北の復興は「スポーツの明るい笑顔から」と当協会の関連事業も4月の東北学連春季競技会からスタートいたしました。

5月10日の第25回仙台ハーフマラソン大会(21.0975km)が新緑に輝く森の都仙台中心部で例年を上回る過去最大の参加者で開催されました。日本を代表する長距離ランナーから、震災地復興を貢献する多くの一般ランナーまで、コースを回り交流を深めました。

当協会では、5月30日に定期評議員会にて役員改選で、次期役員に移行いたしました。今年度も選手の競技力向上(選手強化・育成)普及活動及び指導者養成事業を定め各事業に取り組んでまいります。10月25日第33回全日本女子駅伝対校選手権大会及び12月13日の第35回全日本実業団対抗女子駅伝大会を実施いたします。多くの人たちが応援を楽しみに待っている大会であります。まだまだ震災の影響が残る厳しい環境が続いておりますが、頑張っております。(文責:理事長 小野 寛)

陸協NEWS



JAAF
AKITA

一般財団法人秋田陸上競技協会

〒010-0974 秋田市八橋運動公園1-5
TEL. 018-838-7416 FAX. 018-838-7417
<http://akita-riku.fiw-web.net/>

一般財団法人設立・新体制について

2015年4月1日を持って、遅まきながら当陸協も懸案だった一般財団法人に移行しました。それに伴い、改選時期とも重なり新体制となりました、非常勤ながら事務所も設置となりましたので紙面をお借りし報告します。

【2015・16年度役員】

会長 羽角 光一
副会長 岸 肇
佐藤 隆
岸部 良作
北林 勉
藤田 登
理事長 佐藤 隆 (兼任)
事務局長 鈴木 文男

(文責：事務局長 鈴木文男)

JAAF
FUKUSHIMA

福島陸上競技協会

〒960-1192 福島市永井川字北原田1
TEL. 0243-24-1080 FAX. 024-505-4948
<http://gold.jaic.org/fukushima/>

はじめに、昨年度本県で開催されました「第98回日本陸上競技選手権大会」におきましては、日本陸上競技連盟様をはじめ関係各位に多大なるご支援とご協力をいただき無事終了できましたこと、この場をお借りいたしまして御礼申し上げます。残念ながら豪雨に見舞われ中断を余儀なくされる悪天候でしたが、その悪条件にもかかわらず選手皆様の国内トップのパフォーマンスに、陸上ファンは勿論のこと多くの県民に感動をいただきましたことにも重ねて御礼いたします。本当にありがとうございます。

さて、2015年シーズンも県内各地区の記録会を皮切りに、高体連・中体連大会等を中心に熱戦が繰り広げられております。注目選手としては「山下潤 (福島高校3年) 選手」が順調な仕上がりで予選会を突破しています。6月13日～16日には高校総体東北ブロック大会が地元福島市「とうほう・みんなのスタジアム」で開催予定であり、山下選手をはじめ多くの本県高校生が全国の出場権を獲得してほしいところです。

また、本年は世界選手権が中国北京で開催されますが、本県出身の「今井正人 (トヨタ自動車九州) 選手」がマラソン代表として選出され、大会での活躍を大いに期待しているところです。本協会においても、東邦銀行所属の渡辺真弓選手、千葉麻美選手、青木沙弥佳選手をはじめ一人でも多くが出場獲得することに注目しています。

本協会は役員改選が行われ、会長 (前・片平俊夫→新・鈴木浩一)、理事長 (前・佐藤勇→新・三浦武彦) が選出され、陸上競技の振興と普及発展に新たな体制で臨んでいるところです。

JAAF
YAMAGATA

一般財団法人山形陸上競技協会

〒994-0103 天童市大字川原字1445番地の2
TEL.023-657-3070 FAX.023-665-5579
<http://jaaf-yamagata.jp/>

新年度になっての最初の大会が、春の出羽路を4月27日から29日の3日間にわたり約300kmを走り抜く山形県縦断駅伝競走大会が開催されました。

今回は、第60回という記念大会にあたり、2015年世界選手権大会マラソン代表に決定したトヨタ自動車九州所属の今井正人選手をゲストランナーに迎え、3日目の最終区間を各チームのアンカー選手と一斉スタートで、山形メディアタワー前ゴールまでの14.2kmを走っていただき、中継所や沿道に多くのファンが詰めかけました。表彰式前には、アナウンサーとのトークショーも開催し、記念大会に華を添えていただきました。

2017年南東北3県を会場に開催されますインターハイは、2015年3月に、大会愛称・大会スローガン・シンボルマーク・総合ポスター図案が決定され、6月1日に山形県実行委員会が設立され、準備が本格的にスタートしました。陸上競技は、山形県が会場地となっており、協会としても県高体連陸上専門部と連携を語り、多くの選手の入賞を目指しているところです。また、大会運営についても先進県の視察などをおとし、2017年の大会開催に向けた準備を進めているところです。

4月1日から新たに事務局長として青木国昭氏が常勤となり、事務局体制の充実を図りましたので、よろしく願います。

(文責：総務委員長 阪口 新一)

JAAF
IBARAKI

一般財団法人茨城陸上競技協会

〒310-0031 水戸市大工町1-2-3 トモスミとビル四階
TEL.029-246-5483 FAX.029-246-5484
<http://irk.bent.jp/>

4月1日より、一般財団法人茨城陸上競技協会として新たなスタートを切りました。

これに伴い、事務局も標記場所に移転し、電話番号、FAX、メールアドレスも変更になりました。年度当初の慌ただしい状況の中、一時は情報網が完全に停止するなど、陸上競技関係者の皆様には大変ご迷惑をお掛けいたしました。しかし、ここに至り事務局員の雇用も含めて、事務局の整備も進み、遅まきながら機能回復を果たしたところでもあります。今後は法人という名のもとに、本来の目的である茨城県の陸上競技のより一層の普及と振興を図りながら、本県スポーツ文化の発展に寄与していきたいと考えています。

さて、普及といえ本県の市民マラソンの隆盛ぶりは目を見張るものがあります。過日行われた第25回かすみがうらマラソンは、国内第3位にランクされる2万8千名を超えるエントリー数。また、本年1月に行われた第63回勝田全国マラソンも、2万4千名を超える盛況ぶり。昨秋実施の第34回つくばマラソンでは安全面を配慮し、1万6千名の募集定員枠を設けるも、僅か80分足らずで定員に達する状況となりました。このような市民マラソンブームを反映して、年次登録者数も着実に増えているところです。今後、より多くの市民ランナーをトラック競技会に取り込み、本県陸上の底辺拡大を図りたいと考えています。茨城の陸上競技の更なる発展を期するため、今後とも市民マラソンに全面協力を惜しまない所存であります。

(文責：理事長 潮田 茂)

事務局からのお知らせ

◆◆日本陸上競技連盟公式WEBサイトでは、各種情報を公開しています!◆◆



公式WEBサイト <http://www.jaaf.or.jp>

「陸上ファンの方へ」の頁では、観戦に役立つ大会情報や選手名鑑、記録等。「競技者・審判・委員会の方へ」の頁では、競技会に参加するための資格等の情報、ルールブック・ハンドブック情報、登録の仕方等。「日本陸連について」の頁では、団体情報、委員会情報、出版物の紹介をしています。

◆◆陸上競技ルールブック2015年度版、陸上競技審判ハンドブック2015-2016年度版を4月より全国の書店、ネット書店で販売開始しました。◆◆

陸上競技関係者や愛好家のための2015年度版ルールブック、審判員のための2015-2016年度版審判ハンドブックの発売を開始しました。

修改のあった国際及び日本国内陸上競技ルールを反映し、すべてのルールのほか競技場の仕様、全国の公認陸上競技場一覧などを掲載しているルールブック、競技規則を正しく把握して、審判技術の理解を深め円滑な競技会運営を実行するために審判員必携のハンドブック。

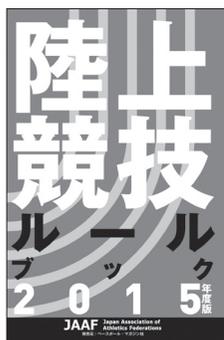
お近くの書店にない場合は、電話またはホームページからご購入いただけます。

お電話でのご注文の場合: 0120-911-410(ベースボール・マガジン社 受注センター)

※受付時間 月曜日～金曜日 10:00～12:00、13:00～16:00(祝祭日を除く)

ホームページからご注文の場合: ベースボール・マガジン社のホームページへ。

<http://bookcart.sportsclick.jp>



陸連時報編集委員

◇編集委員

- 横川 浩 (陸連会長)
- 三宅 勝次 (陸連副会長)
- 友永 義治 (陸連副会長)
- 尾縣 貢 (陸連専務理事)
- 原田 康弘 (陸連強化委員長)
- 風間 明 (陸連事務局長)
- 牧野 豊 (陸上競技マガジン編集長)

◇時報編集室責任者

- 大嶋 康弘
- ◇時報編集担当
- 繁田 進
- 石塚 浩
- 木越 清信
- 宮田 宏
- 高橋 祐哉
- 小川ちあき

陸連時報編集室

〒163-0717
東京都新宿区西新宿2-7-1
小田急第一生命ビル17階
公益財団法人日本陸上競技連盟 内
TEL 03-5321-6580
FAX 03-5321-6591
WEBサイト <http://www.jaaf.or.jp/>
公式動画サイト <http://japanathletics.tv/>